

札幌市スポーツ推進計画掲載事業の令和5年度（2023年度）実施状況

自己評価基準	◎：当初の予定通り実施できたもの ○：概ね予定通り実施できたもの ▲：予定通り実施できなかったもの又は、計画最終年度において事業化に至らなかったもの -：外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの
--------	--

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

方針1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

施策1 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します

(1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
子どものスポーツ参加のきっかけづくり	ウインタースポーツ塾（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	子どもたちを対象に自由に参加できる「さっぽろジュニアアスリートチャレンジ検定」の実施やウインタースポーツを体験できる機会を提供 体験会実施種目：クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック	「さっぽろジュニアアスリートチャレンジ検定」は延べ933人が参加。体験会は、夏期720人、冬期は1,088人の参加があった。	◎
	カーリング普及促進事業（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	カーリングに親しむきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	774名(148回) 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには3,027名(709回)の参加があった。	
	さっぽろジュニアウインタースポーツ料金助成（ウインタースポーツ普及振興事業）	・ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出 ・未就学児（年少・年中・年長）を対象とし、スキーレンタルセット料金助成を行い、スキーを行う機会を創出	料金補助券を配付（スケート貸靴料金、スキーリフト料金、スキーレンタルセット料金） 使用者数延べ21,460人。	
	運動部活動アスリート派遣事業（アスリート活用事業）	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進	27運動部活動に派遣 派遣回数延べ335回	
	オリンピックズキャラバン事業（アスリート活用事業）	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	14イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ2,154人。	
	部活動改革推進事業	各中学校における部活動の振興のため、部の運営を単独で行うことができる「部活動指導員」や、顧問教諭が不在でも単独で技術指導ができる「特別外部指導者」を派遣する。	部活動の振興のため、部活動指導員を68名に増員して派遣したほか、特別外部指導者を32名派遣した。2023年度部活動数は1,189となり、ほぼ横ばい。	
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業（ウインタースポーツ普及振興事業）	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、18校に延べ487人派遣。	◎
スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技5種目及び夏季競技3種目において育成事業を実施。ナショナルチームに9人の育成選手が選出された。また、体力測定会等を行い、優れた素質を有する子どもたちの中から、8人の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考した。	◎
子どもの体力向上推進事業	子どもの体力・運動能力向上事業	子どもの体力、運動能力の向上を目指し、大学と連携してその方策を検討するとともに、運動機会の少ない子どもを対象としたスポーツイベントを開催するなど、子どもの運動・スポーツ機会の一層の充実を図る	子どもの体力向上に係る調査研究を計画通りに実施した。体育の授業以外で、全ての児童生徒の体力・運動能力の向上を図る取組を、各校の計画に位置付けて実施した。運動機会の少ない子どもを対象としたスポーツイベントを開催し、多くの子どもが参加した。	○
児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施	児童会館中・高校生夜間利用「ふりーたいむ」	児童会館において、開設時間を週2回午後9時までに延長することにより、中・高校生の放課後の居場所の確保を図る	〔実施館数〕 107館 〔利用人数〕 44,283人（コロナの第5類感染症移行等により、2022利用人数より増。）	◎

(2) ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツに対する意識の改善	大通駅～バスセンター前駅地下コンコース内へのサイン掲出	地下鉄利用者のサービス向上に加えて、市民のスポーツ意識の啓発を図るため、大通駅・バスセンター駅間の距離、歩行による消費カロリー、スポーツ標語を示したものに更新。	バスセンター前駅地下コンコース内にサイン(スポーツ啓発ポスター)を引き続き掲出した。	◎
子育て世代のスポーツ参加に向けた取組	各区体育館におけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	利用者のニーズに合わせた、親子対象教室や託児付き教室を自主事業として実施	体育館グループにおいては厚別区体育館他2施設にて親子参加型の運動教室を実施。温水プールグループは平岸プールにて親子参加型水泳教室を実施。	○
ウォーキング推進キャンペーンの実施	「ウォークさっ歩ろ」の啓発	ウォーキングを通じて、市民の皆さんがいつまでも元気であり続けること、そして札幌が「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目指す	各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配架	
(各区におけるウォーキング推進事業)	地域団体・学校・企業・関係団体と連携した健康づくり支援事業(中央区)	区民の健康寿命延伸のため、誰もが気軽にウォーキングや食習慣の改善等に取り組む、継続していきけるよう普及啓発事業を企業と連携して推進します。	2023年(令和5年)10月8日 10:30～15:00 無印良品札幌パルコ(中央区南1西3)の協力を得て、大通西4～12丁目にてイベントウォーキング「中ウォークンをさがせ!!」を実施。31組74人が参加。	◎
	東区健康づくり推進事業(東区)	区民の健康意識の向上及び健康づくりに取り組むきっかけづくりとして、関係機関と連携した運動の実践や運動による効果について広く普及啓発を行う。 ・ウォーキング体験会 ・参加型のウォーキングイベント ・ウォーキング教室 ・理学療法士による講話、ストレッチの実技及び歩き方の個別指導	ウォーキングへの興味関心が向上した参加者の割合 87.5% ・ウォーキング体験会 参加者数106名 ・ウォーキング教室 参加者数20名	
	白石健康づくり推進事業(白石区)	健康を意識し、運動や食生活改善に向けて自発的に行動する区民を増やすため、ウォーキングマップの作成や各種スポーツ大会への支援により、気軽にウォーキングやスポーツに親しめる環境を整える	参加人数:87人 新型コロナウイルス感染症5類化に伴い活動を再開した「白石とことこ会」との間で研修やウォーキング会を重ね、区民ウォーキング会の再開につなげた。	
	食とノルディックウォーキングを合わせた健康寿命延伸事業(厚別区)	健康寿命延伸のため、健康に直結する食育と手軽に取り組めるノルディックウォーキングを合わせて実施し、全体として健康を目指す意識と実践の必要性を区民に広める	・ノルディックウォーキング講座(年3回) →7月、9月、10月に3回実施。計188名が参加した。 ・ノルディックウォーキングマップの作成、配布(配布数累計:4500冊) ・ノルディックウォーキングホール貸出 →まちづくりセンターでの貸出を開始し、保健センター貸出と合わせて、59回、144本の貸出を実施。	
	冬も楽しむウォーキング推進事業(南区)	運動不足になりがちな冬にも健康的な生活を送れるよう、冬のウォーキングを楽しむ体験型のイベントや自主的な活動を行う団体への支援を行うほか、併せて食育に関する啓発を行う。	・ウォーキング大会を年3回実施し、このうち秋・冬の大会においては「冬の運動」「食・栄養」に関する啓発を併せて行なった。 ・また、ノルディックウォーキング体験と食育講座を併せて行う講習会を11月末に実施した。 ・その他、地域でウォーキングなどの自主活動を行うグループの会員を対象とした研修会を2回実施した。	
	だれでも・いつでも・なんどでもノルディックウォーキング事業(西区)	幅広い世代の区民が多様なライフスタイルに合わせ、年間を通してノルディックウォーキングを活用した健康づくりに取り組むことができるよう拠点づくり、講習、イベント等を実施	◎ボール貸出件数(=実践者数) (1)通常の貸出:338件……ア ①西保健センター:143件 ②西野まちセン:78件 ③農試公園:117件 (2)講習会等参加:83件……イ ∴ア+イ=421件	
	住んでますます「ていねっていいね」健康長寿事業(手稲区)	北海道科学大学とウォーキング特集サイトを構築し、その活用術を発信するとともに、地域等と連携して健康度がアップする取組を展開	・記事の拡大・充実を図り、令和5年4月に複数記事をアップ。	
スポーツ活動を促進するインセンティブの検討	働く世代への健康増進アプローチ研究事業	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。	R3年4月から本格運用し、中小企業の本事業参加者へ健康増進プログラムの施行や検証、分析を実施してきたが、R4年度で事業終了。今後は、得られた知見と構築したネットワークを活用し、成人期に対する効果的な健康づくり事業を展開していく予定。	○

(3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣	ねんりんピックへの選手派遣	高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康・福祉などの総合的なイベントである「ねんりんピック」に、選手を派遣	13種目74名の選手を派遣した。	◎
老人福祉センターにおける健康増進の場の提供	老人福祉センター運営	地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供	健康増進に関する教養講座を10館で計73講座実施した。	◎
老人クラブへの活動支援	老人クラブ活動費補助事業	健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う老人クラブ連合会の活動を支援	335のクラブ(計16,683名の会員)や老人クラブ連合会に補助金交付を行い、1クラブ当たり平均320人が「地域を豊かにする社会活動」に参加した。	◎

施策2 スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館	中央体育館改築事業	中央体育館を建て替え、今後の市民のスポーツ活動を支える中核施設としての機能を確保します。	2019年度供用開始(事業終了)	◎
スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【保全】 ・厚別温水プール保全改修 ・星置スケート場保全改修 ・北区体育館天井保全改修 ・麻生球場改修工事実施設計 【備品】 ・宮の森ジャンプ競技場圧雪車更新 ・オリンピックミュージアム音声システム購入等を実施。	◎
	大和ハウス プレミストーム保全事業	計画的に保全改修工事を行い、大規模イベントなどを継続的に開催できる環境を保ちます。	一般照明設備改修工事、自動火災報知設備改修工事、可動設備保全業務、弱電設備保全業務 等を実施。	
	藤野野外スポーツ交流施設リニューアル事業	藤野野外スポーツ交流施設(フッズ)の老朽化が進んでいるリフトを更新	第2ロマンズリフト更新のため、劣化度調査・実施設計を行った。	
	硬式野球場整備事業	硬式野球場の不足に対応するため、既存の軟式野球場を硬式野球場に改修	スタンド工事及びグラウンド工事等を実施。	
	市民運動広場整備事業	北区新琴似の市有地について、地盤や地下水への影響を見極めながら、市民運動広場としての活用を図る。	広場の造成工事、地下水モニタリング等を実施	
	安全・安心な公園再整備事業	誰もが公園を安全に安心して利用できるよう、老朽化した公園施設の更新や部分的な機能再編、バリアフリー化等を実施します。	2023:13% 総合・運動・地区公園の再整備工事を実施した。(農試公園、屯田西公園、新琴似グリーン公園) 新琴似グリーン公園(地区公園)は再整備事業完了	
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」を策定した。	◎
	スポーツ施設再整備事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館更新や大倉山ジャンプ競技場等の改修を実施します。	【美香保体育館】 ・美香保体育館の後継施設整備に係る基本計画案を作成した。 【大倉山等ジャンプ競技場】 ・ジャンプ競技場の改修計画検討及び周辺の環境調査(冬)を実施した。 【温水プール】 ・温水プールの民間活力活用に向けた調査結果をもとに本市所管のプールや民間プールを含めた効率的・効果的な施設のあり方について検討を行った。	

(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
学校開放の実施	学校施設開放事業 (学校施設等開放事業)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、身近なスポーツ活動の場を提供(体育館、グラウンド、格技室)	2023年度も小中学校の体育施設を市民へ開放し、市民のスポーツ活動の場の提供を継続。 2023年度の利用率: 86.8%	◎
スポーツ施設供用時間の延長の検討	どうぎんカーリングスタジアムの供用時間の延長 (体育施設運営管理事業)	競技力の向上と裾野拡大を図るため、ネーミングライツを財源として、開館時間を延長(月～木: 1時間、金・土: 2時間) ただし、令和6年2月5日より同年10月頃まで施設の改修工事のため休館としている	2023年4月1日～2024年2月4日(年末年始、整備日、氷張替休館、コロナウイルス休館除く)実施。	○
新たなパークゴルフ場の整備	公園造成事業	みどりを保全・創出し、都市の魅力を高めるほか、幸福感のある日常生活を市民に提供するため、環境保全やコミュニティ形成、レクリエーションなどの多様な機能を有する公園を整備します。	2023: 66% 厚別山本公園における、第2進入路及びアクションスポーツ広場等の造成工事を実施した。 ※厚別山本公園におけるパークゴルフ場の整備: 2019.4に供用開始済	◎
ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及	ラグビー普及振興事業	小学生を対象としたタグラグビーの普及を行うとともに、トップレベルの試合を観戦する機会を提供	2023年度、札幌市内小中学校のタグラグビー実施率99%	◎
スポーツ関連情報の効果的な提供	スポーツ関連情報の効果的な提供	公式ホームページ、広報誌のほか、イベント出展などを通じて随時情報提供	各事業においてそれぞれ実施	○
さっぽろ市民カレッジの実施	さっぽろ市民カレッジ運営	札幌市生涯学習センターを拠点として「さっぽろ市民カレッジ」を開設し、ヨガや体操など、老若男女が気軽にスポーツを体験できる講座を提供する。	ヨガ、体操、ウォーキング、体幹トレーニング等の講座を実施し、スポーツを体験できる機会を提供した。市民カレッジ年間受講者数は3,834名であった。	◎

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究	スポーツ施設整備費補助事業	市民がスポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	補助件数5件(累計) (2019: 2件、2020: 1件、2022: 1件、2023: 1件)	○

施策3 ウィンタースポーツを振興します

(1) ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツ塾の開催【再掲】	ウィンタースポーツ塾【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	子どもたちを対象に自由に参加できる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」の実施やウィンタースポーツを体験できる機会を提供 体験会実施種目: クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート、アイスホッケー、ショートトラック	「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」は延べ933人が参加。体験会は、夏期720人、冬期は1,088人の参加があった。	◎
ウィンタースポーツ少年団の活性化	ウィンタースポーツ競技団体とのマッチング (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	ウィンタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験練習会の開催や広報を支援	カーリング体験会、親子フィギュアスケート体験会を実施し360人が参加。また、リュージュ体験会も予定していたが、天候の影響で中止となった。このほか、市役所ホームページに少年団情報を掲載し、ジャンプ少年団の体験会広報チラシを配布した。	○
カーリング競技の普及	カーリング普及促進事業【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	カーリングに親しむきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	774名(148回) 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには3,027名(709回)の参加があった。	◎
ウィンタースポーツインストラクターの派遣	さっぽろっ子ウィンタースポーツパワーアップ事業 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウィンタースポーツに親しむ習慣を育む	スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣60校延べ704人 歩くスキー 派遣11校延べ106人	◎

(2) ウィンタースポーツの経済的負担の軽減

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツ実施時の利用料金等の助成	さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助成【再掲】 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出 未就学児(年少・年中・年長)を対象とし、スキーレンタルセット料金助成を行い、スキーを行う機会を創出	料金補助券を配付(スケート貸靴料金、スキーリフト料金、スキーレンタルセット料金) 使用者数延べ21,460人。	◎
児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供	さっぽろっ子スキーリサイクル	スキー学習に向けた保護者の負担軽減を目的として、市民からリサイクル可能なスキー用具を回収し有効活用	市民からリサイクル可能なスキー用具を回収して、1,065セットの用具を必要とする家庭に配付した。	◎
さっぽろアスリートサポート事業	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援件数 計209件	◎

(3) ウィンタースポーツ競技大会の情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
ウィンタースポーツシーズンにおける大会情報の発信	ウィンタースポーツ観戦文化醸成(ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウィンタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	W杯男子: 1試合平均2,650人(2日間合計5,300人) W杯女子: 1試合平均2,050人(2日間合計4,100人) サマージャンプ大会: 1試合平均355人(2日間合計710人)	▲
ウィンタースポーツ競技大会の開催支援	ウィンタースポーツ観戦文化醸成【再掲】(ウィンタースポーツ普及振興事業)	ウィンタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウィンタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	W杯男子: 1試合平均2,650人(2日間合計5,300人) W杯女子: 1試合平均2,050人(2日間合計4,100人) サマージャンプ大会: 1試合平均355人(2日間合計710人)	▲

方針2 スポーツを通じた健康増進

施策4 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

(1) 市民の自主的な健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
地域における健康づくり活動の支援	健康づくりサポーター派遣事業	これから健康づくりを始める、又は活動をさらに活性化したいと考えている自主活動グループや町内会などの団体に対して、健康づくりサポーターを派遣	趣味サークルや町内会等の自主活動グループに対し、健康づくりサポーターを派遣し、健康さつぽろ21の課題等の啓発を実施(派遣回数65回)。	○
	清田区健康アップ推進事業	運動習慣のある区民を増やすとともに、加えて、バランスの良い食習慣の普及も進め、運動と栄養の両面から健康づくりに取り組む区民を増やし、健康寿命の延伸につなげることを目的とする。	・きよつち健康ポイント事業を実施(参加者数352名) ・区役所健康増進フロアで土曜日に運動教室(全78回)、日曜日にヨガ教室(全12回)を実施。	○
ビジネスパーソン・女性の健康づくりの推進	働く世代への健康増進アプローチ研究事業【再掲】	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。	R3年4月から本格運用し、中小企業の本事業参加者へ健康増進プログラムの施行や検証、分析を実施してきたが、R4年度で事業終了。今後は、得られた知見と構築したネットワークを活用し、成人期に対する効果的な健康づくり事業を展開していく予定。	○
	大通駅・バスセンター前駅地下コンコース内へのサイン掲出	地下鉄利用者のサービス向上に加えて、市民のスポーツ意識の啓発を図るため、大通駅・バスセンター駅間の距離、歩行による消費カロリー、スポーツ標語を示したものに更新。	バスセンター前駅地下コンコース内にサイン(スポーツ啓発ポスター)を引き続き掲出した。	○
	各区体育館におけるスポーツ教室事業等【再掲】(体育施設運営管理事業)	利用者のニーズに合わせた、親子対象教室や託児付き教室を自主事業として実施	体育館グループにおいては厚別区体育館他2施設にて親子参加型の運動教室を実施。温水プールグループは平岸プールにて親子参加型水泳教室を実施。	○
	各種ウォーキング推進事業	仕事や家事、育児などで時間が取れない方や運動が苦手な方にとっても、気軽に取り組めるウォーキングをきっかけとした運動習慣づくりに向けた事業を実施。	各区で実施しているウォーキング推進事業など、ウォーキングを推進する取組を数多く実施しており、種目別スポーツ実施率としてもウォーキングは非常に高い実施率となっている。	○
公園などの散歩できる場の提供	公園造成事業【再掲】	みどりを保全・創出し、都市の魅力を高めるほか、幸福感のある日常生活を市民に提供するため、環境保全やコミュニティ形成、レクリエーションなどの多様な機能を有する公園を整備します。	厚別山本公園における、第2進入路及びアクシヨンスポーツ広場等の造成工事を実施した。 ※厚別山本公園におけるパークゴルフ場の整備: 2019.4に供用開始済	◎
	安全・安心な公園再整備事業【再掲】	誰もが公園を安全に安心して利用できるよう、老朽化した公園施設の更新や部分的な機能再編、バリアフリー化等を実施します。	総合・運動・地区公園の再整備工事を実施した。(農試公園、屯田西公園、新琴似グリーン公園) 新琴似グリーン公園(地区公園)は再整備事業完了	◎
	地域に応じた身近な公園整備事業	良好な都市環境や子どもの遊び場を維持・創造するため、人口の増加により身近な公園が一層不足すると予想される既成市街地への新規公園整備や狭小公園の拡張を進める。	あけぼの公園(南11条西10丁目、543㎡)について、北隣にあったあけぼの保育園跡地(888㎡)を活用し、R9に拡張整備工事を行うべく、関係部局と必要な事業調整を行った。	◎
	地域と創る公園機能再編・再整備事業	公園に対する地域ニーズの変化や少子高齢化等の社会情勢の変化に対応するため、老朽化した身近な公園を再整備します。	地域の核となる公園の全面再整備工事を実施した。(やまはなサンパーク、新川サイロ公園など)	◎

(2) 健康づくりセンターの活用

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
健康度測定の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業(健康度測定)	健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成。	健康度測定の実施: 利用者1,060人	○
有資格者による運動指導の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業(運動指導)	市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行う。	個別運動指導の実施: 延564人 運動指導員派遣: 延407人	○

施策5 冬季における運動習慣を推進します

(1) 気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
歩くスキーの普及振興	歩くスキー普及振興事業	市民が手軽にウインタースポーツを楽しめる環境づくりのため、中島公園及び白旗山競技場に歩くスキーコースを設置し無料で開放する	中島公園利用者数6,425人 白旗山利用者数：2,565人	◎
大通公園ウインタースポーツフェスティバルの開催支援	さっぽろスノースポーツフェスタの開催支援	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりを行う。 ※2019年度から大通公園ウインタースポーツフェスティバルに代わり、さっぽろスノースポーツフェスタを開催。	2023年度は豊平川河川敷特設会場にて、クロスカントリー大会(ジュニア・パラの部)のほか、スキー、スノーボード、スノーシュー、シットスキー等の体験会などを実施した。	○
カーリング競技の体験機会の提供	どうぎんカーリングスタジアムにおけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	気軽にカーリングを体験できる機会として、体験教室や団体向けレクリエーションを開催 ただし、令和6年2月5日より同年10月頃まで施設の改修工事のため休館としている	観光客向け、市内団体(町内会や学校等)向けに体験会を開催し、330団体を受け入れ、約4,836人の参加があった。	○

(2) 冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供	スノーホッケー会場整備	雪上で気軽に楽しめるウインタースポーツとして札幌市が考案したスノーホッケーについて、会場を整備のうえ市長杯争奪スノーホッケー大会を開催	2024年2月24日(日)に開催し、213名の選手が参加した。	◎
	冬も楽しむウォーキング推進事業(南区)【再掲】	運動不足になりがちな冬にも健康的な生活を送れるよう、冬のウォーキングを楽しむ体験型のイベントや自主的な活動を行う団体への支援を行うほか、併せて食育に関する啓発を行う。	・ウォーキング大会を年3回実施し、このうち秋・冬の大会においては「冬の運動」「食・栄養」に関する啓発を併せて行なった。 ・また、ノルディックウォーキング体験と食育講座を併せて行う講習会を11月末に実施した。 ・その他、地域でウォーキングなどの自主活動を行うグループの会員を対象とした研修会を2回実施した。	
冬季における公園(スキー山)の活用促進	冬季における公園利用の推進	快適な冬の暮らしを実現するために、スキーや雪遊びなど冬季の公園活用を推進	歩くスキーコースの設置及び道具の貸し出し(モエレ沼公園、川下公園、農試公園、前田森林公園等)や、スキー山で使用するソリの貸し出し(モエレ沼公園、農試公園等)、チューブソリの貸し出し(円山公園)等を実施	○
雪かき汗かきチャレンジ	雪かきチャレンジ、雪遊びチャレンジ	自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒が雪に親しめるとともに、冬季における運動習慣の定着を図る	14,630名の児童生徒が雪に親しみながら体を動かす習慣を身に付けるとともに、公共のために役立つ活動を主体的に行った。	○

方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

施策6 地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます

(1) 地域におけるスポーツ活動の支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
地域スポーツクラブの活動支援	体育振興会への活動支援	地域におけるスポーツ活動が活発に行われるように、体育振興会のニーズに応じて、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の紹介するなどの協力を行う	1件の講師派遣を行った。	▲
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業【再掲】 (ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、18校に延べ487人派遣。	◎
地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援	スポーツ振興事業 例：清田区における地域スポーツ活動支援	各競技団体と共催(一部後援)でスポーツ大会を開催する。また清田区スポーツネットの活動を支援し、区内スポーツ関係情報の発信、スポーツを楽しむ機会の提供、スポーツ関係者の資質向上を図る。	令和5年度は、区内の7競技団体と共催(一部後援)で各種大会を実施。 札幌国際大学「SIUスポーツクラブ」との共催により「シニアスポーツ教室」や「キッズスポーツ教室」など、幅広い年代を対象としたスポーツ教室を複数回開催。 また、清田区スポーツネットと共催で「スポーツ講演会」「Fun × Fan Sports in きよた」を開催することで、スポーツ関係者との連携を強化し、子どもたちを中心とした清田区民にスポーツを楽しむ機会、好きになるきっかけを提供した。	○

(2) 区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
区の特徴をいかしたスポーツ振興事業の実施	東区スポーツSDGs事業	東区を拠点に活動する女子サッカークラブチーム「ノルディア北海道」と連携し、幅広い世代の区民が気軽にスポーツに触れられるイベントを実施することで、スポーツに関する興味喚起と地元チームへの愛着形成を図った。	2023: 合計114名 ・区民応援デー(R5.6.24) 連携: 3団体、参加者: 45名 ・サッカーキャンプ(R5.8、R5.10) 連携: 4団体、参加者: 計69名 (R5.8.5: 21名、10.22: 48名)	
	とよひらスポーツ応援プロジェクト事業(豊平区)	スポーツによる健康で活力のある社会の実現に向けて、多数の国際規模のスポーツ施設がある区の特長を最大限に活用し、区民がスポーツを楽しむきっかけとなる場を提供	〔イベント参加者のスポーツに対する意識向上割合〕77% 〔イベント参加者数〕2,695人 実施した事業は以下のとおり。 ・スポーツバイキング2023 ・とよひらkidsスポーツ体験会(フィギュアスケート体験会、タグラグビー体験会、スポーツクライミング & パラスポーツフェスティバル) ・豊平区スポーツ推進委員会との共催事業(地区対抗少年野球大会、地区対抗壮年野球大会、地区対抗ドッジボール大会) ・各種スポーツ大会の後援、助成	
	スポーツフェスタin白旗山(清田区)	スポーツの日に白旗山競技場において、広く区民に対してスポーツ等に親しむ行事を行う団体の活動に対して、助成金を交付する。	近年、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としていたが、4年ぶりに開催。区内スポーツ団体等による多くの運営ボランティアにより、少年野球教室の他、ミニサッカー大会などが行われた。 今回はレバンガ北海道によるシュートチャレンジも登場し、誰でも気軽に参加できるゲーム感覚のスポーツ体験を多種目で実施。 当日は約1,500人が来場した。	
	体力測定会	西区体育館を活用して身長・体重・血圧・体脂肪・握力・閉眼片足立ち・長座体前屈・全身反応・垂直跳び・上体起こしの10項目を無料で測定。	実施日: 令和5年6月11日(日) 参加者数: 100名	
	西区みんなで楽しむマラソン大会	農試公園を会場に、西区スポーツ推進委員会との共催で毎年10月の「スポーツの日」(旧: 体育の日)に開催しているマラソン大会。1km、3km、5kmの3コースがあり、タイムや着順の記録は行わず、走れる距離をそれぞれのペースで完走を目指す。	実施日: 令和5年10月9日(月祝) 参加者数: 462名	
	西区フロアカーリング普及事業	西区スポーツ推進委員会との共催で区民にフロアカーリングを体験してもらうほか、その他スポーツの体験や簡易的なスポーツによる縁日を実施。	実施日: 令和6年2月25日(日) 参加者数: 78名	
	手稲ふるさと創生事業	手稲山の自然に触れて親しんでもらえるよう手稲山ウオーキングや親子スキー教室などのイベントを開催し魅力再発見につなげる	手稲山ウオーキング: 164人 親子スキー教室: 積雪不足により中止	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業	市民が主役のまちづくりを進めるため、身近な地域のまちづくり活動の支援を行う。(まちづくりに資する地域のスポーツ振興活動の支援を含む。)	各区における地域の主体的なまちづくり活動に対して、各区への予算措置による支援を実施した。 〔2023年度実績〕 住民主体の事業数の割合: 80.5% これにより各区では、まちづくりに資する取組の一環として、地域のスポーツ振興活動への支援も実施した。(スポーツイベントの開催、スポーツを通じた健康づくりイベントの開催、各種スポーツ大会の開催や運営支援など) ※上記実績は、事業全体における数値であり、スポーツ振興に関する事業のみの数値ではない。	○
	(中央区)	①2023アタック・ザ・531M ②第20回中央区インドア雪合戦大会 ③Cスポーツパーティー2023 ④かんじきウォークin円山公園 ⑤スポーツ大会後援	①参加者数: 41名 ②参加者数: 173名 ③参加者数: 延べ500名程度 ④参加者数: 約110名 ⑤スポーツ大会後援 ・少年野球大会(第34回) ・パークゴルフ大会(第23回) ・中学生バドミントン大会(第22回)	
	(北区)	①北区少年少女スポーツ大会 ②「やってみよう! 遊ぼう! 北区雪合戦」	①北区在住または北区の小学校に通う小学生を対象として、レバンガ北海道と共同で実施。106名が参加。 ②北区在住(または代表者が北区在住)の方を対象として実施。16チーム(140名(うち子どもは8チームで74人))が参加。	

(未来へつなぐ笑顔の まちづくり活動推進事 業)	(東区)	ひがしく健康・スポーツまつり 各団体が様々な立場や視点から「健康・スポ ーツ」について考え、区民・企業・行政が一丸とな って取り組むイベントを開催する。	4年ぶりに従来の規模で開催し、2022年よりも 開催時間、出展数を拡大した。 参加人数:約700人
	(白石区)	年齢、性別、障害の有無といった様々なハード ルを越えて、誰もが気軽にゲーム感覚で楽しむ ことができるニュースポーツを通じて、普段ス ポーツを行っていない高齢者や子どもたち等が、 気軽に体を動かすことにより、区民の健康づくり や交流促進を図る。	○なわとび大会 124人 なわとび体験 230人 ○ニュースポーツ貸出件数104件 利用者数16,898人
	(厚別区)	「厚別区スポーツチャレンジ」 誰もが気軽にスポーツを楽しみ、体験できる場を 提供し、区民の健康増進やスポーツを通じた地 域交流を図るとともに、スポーツに取り組むきつ かけづくりにも寄与することを目的に実施。 ※このほか5事業、全6事業を実施	参加者数:180名
	(豊平区)	区内に札幌市を代表するスポーツ施設が点在す る特色を生かした「スポーツによるまちづくり」を 推進するため、各施設を拠点に活動するスポ ーツチームと連携して、子ども向けスポーツ体験会 を中心に、区民のスポーツ振興と地元チームへ の興味喚起を目的とする事業を実施した。	2023:計4回(各1回)開催 計137名参加 ●ジュニアフットサル体験会 ●ジュニアダンス体験会 ●ジュニアバスケットボール教室 ●ジュニアバドミントン体験会 ●その他 各団体の区民応援デーの広報協力を行った ほか、応援デー当日に豊平区PRブースを出 店した。
	(南区)	①あつまれ!まこまないの森 スポーツを通じた子どもたちの健全な発育・発達 及び体力増進を目的として、ツリークライミング 及びポッチャ、オリエンテーリングの体験会を開 催。 ②第50回南区少年少女親善スポーツ大会(ポッ チャ体験会) スポーツの得手不得手や障がいの有無に関わ らず、すべての人が一緒に競い合えて、誰でも 楽しめるポッチャの普及を目指す。 また、子どもたちへスポーツの楽しさを伝えたと ともに、親睦交流を深める。	①申込:39名、参加:28名 ②申込:50名、参加:43名

施策7 スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します

(1) スポーツボランティアの育成と推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツボランティア の活動及び研修機会 の提供	スポーツボランティアの 運営・管理 (地域スポーツコミッシ ョン事業)	スポーツボランティア(スマイル・サポーターズ) の派遣、研修等を行う。	・2023年度は延べ参加者数が1,232人に増加 した ・新型コロナウイルス感染症の類型が5類に 変更となったことに伴い、大会等が例年並み に開催されることとなったことから派遣数を確 保することができたほか、小学校スキー学習 支援事業や研修会の実施によりボランティア の活躍機会やスキルアップの機会を創出し、 ボランティア文化の醸成に寄与した	◎

(2) スポーツ推進委員の活動促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツ推進委員の活 動促進	スポーツ推進委員の活 動促進	札幌市及び各区スポーツ事業への参画・協力を はじめ、各地域、町内会等の住民組織及び地域 スポーツ団体と連携し、市民の健康・体力づく りに向けた事業の企画・運営・指導等を実施	19イベント開催	◎

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
クリーンでフェアなス ポーツの推進	競技団体等の連携によ るスポーツ・インテグ リティの啓発	スポーツ関係者によるコンプライアンス違反、体 罰、暴力等の根絶を目指し情報提供等を行う	札幌市スポーツ協会による、選手強化・育成 や指導者の資質向上及び各競技の普及促進 を図ることを目的とした加盟競技団体向けの 講習会・研修会を実施。	○

施策8 トップスポーツやアスリートと連携を図ります

(1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
アスリートの活用	運動部活動アスリート派遣事業【再掲】 (アスリート活用事業)	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進	27運動部活動に派遣 派遣回数延べ335回	◎
	オリンピックスキャラン事業【再掲】 (アスリート活用事業)	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	14イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ2,154人。	
ウィンタースポーツインストラクターの派遣【再掲】	さっぽろっ子ウィンタースポーツパワーアップ事業【再掲】 (ウィンタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウィンタースポーツに親しむ習慣を育む	スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣60校延べ704人 歩くスキー 派遣11校延べ106人	◎
大学のスポーツ資源をいかした連携	大学との連携によるスポーツ振興	大学施設を活用した事業、大学部活動との連携によるスポーツイベントの実施など	複数の部局において、大学と連携した取組を実施。	○

(2) アスリートの育成支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技5種目及び夏季競技3種目において育成事業を実施。ナショナルチームに9人の育成選手が選出された。 また、体力測定会等を行い、優れた素質を有する子どもたちの中から、8人の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考した。	◎
さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援件数 計209件	◎
スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討	スポーツ支援企業マッチング事業	支援を必要とする競技者や少年団等とスポーツへの支援に興味を持っている企業を結び付ける方法について検討を行う。	・2023年時点では制度化には至っていないが、スポーツへの支援意向のある企業と競技団体や少年団をつなぐ取組は随時、個別に実施している。	▲

(3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
プロスポネット SAPPOROによる取組	プロスポネット SAPPORO連携事業	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	年間実施数:12事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・他部局連携(教育、消防) ・共通カレンダー作成 ・合同動画放映 ・シティドレッシング ・豊平公園駅パネル ・雪かき汗かきチャレンジ ・札幌マラソンコラボ ・チャレンジ! スポーツパークコラボ ・FISジャンプワールドカップコラボ ・プロスポネットPRコーナー設置	○
	デンソー、北海道イエロースターズ、アルテミス北海道とのバレーボール普及振興事業	デンソーエアリービーズ(V1女子)及び北海道イエロースターズ(V2男子)を保有するミリーソスポーツ、アルテミス北海道(V3女子)を保有する一般社団法人北海道レディーススポーツクラブとのホームタウンパートナー協定に基づき、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成を図る	1事業 シティPRとしてアリーナにスマイルロゴの掲出	
	大和ハウス プレミストドーム利用料金減免補てん補助金	コンサドーレが大和ハウス プレミストドームで試合を開催する際の基本使用料について、ホームタウンとして減免することで自立経営への取り組みを支援	大和ハウス プレミストドームにおいて全20試合を開催。 1試合平均入場者数15,209人	
北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放	ファイターズ屋内練習場市民開放事業	ファイターズ屋内練習場を小中学生が使用する際の経費を補助	小、中学生の利用回数122回に対して補助を行った。	◎
北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツの普及振興	北海道コンサドーレ札幌との連携によるウィンタースポーツ普及振興	コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウィンタースポーツの普及振興やアスリートの育成を目指す	ジャンプW杯札幌大会協力(マスコットキャラクター派遣)	◎

自己評価基準	◎：当初の予定通り実施できたもの ○：概ね予定通り実施できたもの ▲：予定通り実施できなかったもの又は、 計画最終年度において事業化に至らなかったもの －：外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの
--------	--

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

施策9 障がい者スポーツを振興します

(1) 障がい者スポーツの普及・振興の促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
区体育館における障がいのある方の利用促進	障がい者スポーツ体験会の実施 (障がい者スポーツ普及促進事業)	様々な競技の体験会を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解の促進を図る。	大型商業施設にて体験会等のイベントを実施したほか、市内の各体育館を活用した障がい者スポーツ体験会、日本財団バラスポーツサポートセンター事業である「あすチャレ！ジュニアアカデミー」の活用で市内小中学校へのパラアスリートの出前授業に加え、つどむでの体験会を実施するなど、幅広く事業を展開したことで、参加人数も大幅に伸びて6,455人となった。	◎
障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催	障がい者スキー普及促進事業 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がいのある方のウィンタースポーツの裾野拡大を目的として、バيسスキー・シットスキーの指導者養成講習会及び体験会を開催	2018年度よりシットスキー及びバيسスキーについて指導者養成講習会を実施している。2023年度は、シットスキーの指導者養成講習会16名受講、バيسスキーの指導者養成講習会は12名受講。シットスキー体験会は7名参加、バيسスキー体験会は6名参加。	○
障がい者スポーツ普及促進協議会の設置	障がい者スポーツ普及促進協議会の設置 (障がい者スポーツ普及促進事業)	学識経験者をはじめ、障がい者団体や競技団体、スポーツ施設運営者など多様な関係者からなる協議会を設置し障がい者スポーツの普及促進を図る	2018年度より、障がい者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を目的にスポーツ団体や民間企業出身の委員等から成る「札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会」を設置しており、2023年度は3回の会議を開催した。	○

(2) 障がい者スポーツの拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツクラブの拠点づくり	障がい者スポーツ専用の学校開放 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、みなみの杜高等支援学校の体育館で障がい者スポーツ専用の学校開放を実施	2023年度は79.1%の稼働率となった。また、新たな障がい者スポーツの活動場所として、清田区平岡公園小学校で、平日の月2回に限り、障がい者スポーツ競技団体の優先枠を設けることとした。	○

(3) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援	全国障害者スポーツ大会札幌市選手団派遣 (障がい者スポーツ普及促進事業)	全国障害者スポーツ大会に札幌市選手団を派遣	2023年度は76名の派遣を行った。	◎
	札幌市障がい者スポーツ推進事業補助金 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツ大会開催事業や選手団派遣に係る交通費等への助成	鹿児島県での全国大会開催に伴う北海道・東北ブロック予選会に係る選手団派遣に必要な助成(74万6千円)を行った。 また、はまなす車いすマラソン大会の開催準備に係る助成(450万円)を行った。	
	障がい者スポーツ大会開催事業	市内の障がい者(身体・知的・精神)を対象としたスポーツ大会(通称すずらんピック)を開催	すずらんピック実施 (参加者数:1061名(役員含))	

(4) スポーツ施設のアクセシビリティ向上

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツ施設の計画的な保全、改修【再掲】	スポーツ施設リフレッシュ事業【再掲】	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【保全】 ・厚別温水プール保全改修 ・星置スケート場保全改修 ・北区体育館天井保全改修 ・麻生球場改修工事実施設計 【備品】 ・宮の森ジャンプ競技場圧雪車更新 ・オリンピックミュージアム音声システム購入等を実施。	◎
障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	障がいの種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「障がいのある方への配慮のガイドライン」を策定し誰もが利用しやすい施設運営を行う	障がいのある方への配慮のガイドライン(H28.10策定、H30.5改定)に基づき、誰もが利用しやすい運営を行い、共生社会の実現を目指す。	○
スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会において「バリアフリーマップ」の導入を検討	HPのフロアマップにおいて、多目的トイレなどの表示を行っているが、より誰もが見やすいバリアフリーマップの作成へ向けて、他企業や団体などの情報収集を行い、札幌市のスポーツ施設におけるマップのあるべき姿の検討を進めている。	○

スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「ウェブアクセシビリティ方針」を策定し誰もが利用しやすいホームページ運営を行う	ウェブアクセシビリティ方針が策定され、ホームページ上に公開されている。 ホームページのJIS X 8341-3:2016に基づいた試験が行われており、適合レベルAAに準拠している。	◎
-------------------------	-------------------------	---	---	---

施策10 スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

(1) 姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業 (スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団がスポーツを介して交流を行う	2023: 交流なし 理由: 海外へ目を向けてもらうため、スポーツを通じた国際交流を目的としていたが、事業が始まった当初(海外へ行くことが珍しかった時代)とは異なり、競技力の高い子どもたちは既に海外に進出しているため、本事業の役割は終えたとして実施せず。	—
札幌マラソン大会姉妹都市交流事業	札幌マラソン大会姉妹都市交流事業 (スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、5年毎の姉妹都市提携記念年に該当する相手都市から選手団を札幌マラソン大会に招待	2023: 交流なし 理由: 海外へ目を向けてもらうため、スポーツを通じた国際交流を目的としていたが、事業が始まった当初(海外へ行くことが珍しかった時代)とは異なり、競技力の高い子どもたちは既に海外に進出しているため、本事業の役割は終えたとして実施せず。	—

(2) スポーツを通じた国際交流の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進	札幌国際交流館国際交流事業	札幌国際交流館において、市民と外国籍市民等とがスポーツを通じて相互理解及び親善を深められる事業を実施	外国語講座や国際交流ダンスフェスティバル等を実施。また、併設するJICAと共催での「世界ふれあいミニひろば」を実施。年間合計108回の国際交流事業を実施し、延べ3,952名の参加があった。	○
国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援	さっぽろアスリートサポート事業 (スポーツ振興基金助成金(国際交流の部))	次世代のトップアスリート育成のため、各種大会参加経費等へ補助	大会出場支援件数 計209件 (うち、国際の部は18件)	◎
ラグビーワールドカップ2019TMの開催を契機とした国際交流	ラグビーワールドカップ2019開催事業	外国人おもてなし事業、ファンゾーン運営など	2019年度開催(事業終了)	◎
札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流	札幌国際スキーマラソン大会選手交歓会における選手間の国際交流	札幌国際スキーマラソン大会の前日に開催するウェルカムパーティーにおいて、国内・海外選手の交流を図り、それぞれの国の文化や習慣などに触れ合う機会を創出する	ウェルカムパーティーでは、ワールドロペットマスター※をもてなすなど、海外15ヶ国から100名を超える参加を得た ※ワールドロペットマスター…当大会は世界20カ国のクロスカントリースキー大会で構成する『ワールドロペット』に加盟しており、これらの大会の中から、10大会を完走すると「ロペットマスター」に認定される。現在世界中に約3773人、日本には59人いる(前回大会時)。	◎

方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

施策11 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進	スポーツツーリズム振興 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについて、オンラインを活用したプロモーションを実施(ボストン、シンガポール等) ・スノーベースタウン事業の実証実験のため、定山溪をベースとした道内スキー場へのモニターツアーを実施 ・「Sapporo Snow Park」(旧ナイトクロカンinホワイトイルミネーション)を実施 ・東京2020大会マラソンレガシーを継承した事業「街RUN中島公園」を軸に初の冬季イベントを実施し交流人口を拡大することで、利用者のモチベーションの向上に寄与した。	○
海外代表合宿の誘致	国際競技大会や事前合宿等の誘致 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・海外代表選手団の合宿等の実績は無し	▲

(2) 市民スポーツ大会の開催支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
市民スポーツ大会の開催支援	市民スポーツ大会の開催支援 (スポーツ事業助成事業)	各種スポーツ大会への助成	・札幌市民体育大会: 17,892人 ・札幌マラソン: 10,238人 ・北海道マラソン: 18,020人 ・札幌国際スキーマラソン: 792人 ・北海道を歩く: 781人	◎

施策12 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

(1) 札幌の魅力をいかした観光資源の活性化検討

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ	オリンピックミュージアム魅力アップ調査事業	オリンピックミュージアムの魅力を向上させるため、体験装置・展示物の更新に向けた調査を行う。	— (2024年度に調査実施)	▲
大和ハウス プレミストドームの活用促進の検討	大和ハウス プレミストドーム活用促進事業	大和ハウス プレミストドームが持つ多目的市民利用施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、機能拡充を推進しドームの活用促進を図る	前年度から繰越となっていた、アルミトラスの納品及びトラス格納庫の建設が予定通り完了した。	○
スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出	スノーリゾート推進事業	スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略に基づき、スノーリゾートとしてのブランド化に向けて、市内スキー場の魅力向上やスキー場と関連事業者の連携事業支援、冬季観光コンテンツの充実等に取り組む。	①市内スキー場魅力アップ補助金 →9件の事業に補助 ②市内6スキー場連携事業支援 →スキー博(オーストラリア)への出展、道索道協会のスキーイベントへの参画、雪まつり会場でのPRブース出展などでプロモーションを行った。 ③冬季コンテンツ造成補助 →2件の事業に補助	○
	都心における冬のアクティビティ創出事業	都心部にスケートリンクを設置するとともに、ホワイトイルミネーションの活用等により夜観光の魅力も高めることで、札幌ならではの新たな体験型コンテンツを創出	北3条広場にスケートリンクを設置し、スマイルリンクさっぽろを開催。※R4年度初開催 【会期】2月1日～14日 【実施コンテンツ】 ①スケートリンク一般開放 ②元オリンピックによるスケートショーやスケート教室 ③雪だるま制作エリア ④協賛社ブース出展 【来場者数】 46,353人 (うちリンク利用者数4,432人)	
	スポーツツーリズム振興【再掲】 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについて、オンラインを活用したプロモーションを実施(ポストン、シンガポール等) ・スノーベースタウン事業の実証実験のため、定山溪をベースとした道内スキー場へのモニターツアーを実施 ・「Sapporo Snow Park」(旧ナイトクロカンinホワイトイルミネーション)を実施 ・東京2020大会マラソンレガシーを継承した事業「街RUN中島公園」を軸に初の冬季イベントを実施し交流人口を拡大することで、利用者のモチベーションの向上に寄与した。	

(2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチームの連携	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスパーダ)と連携してスポーツを通じたまちづくりを推進	年間実施数:12事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・他部局連携(教育、消防) ・共通カレンダー作成 ・合同動画放映 ・シティドレッシング ・豊平公園駅パネル ・雪かき汗かきチャレンジ ・札幌マラソンコラボ ・チャレンジ!スポーツパークコラボ ・FISジャンプワールドカップコラボ ・プロスボネットPRコーナー設置	○
	ホームタウンパートナー協定に基づく、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成	デンソーエアリービーズ(V1女子)及びサフィールヴァ北海道(V2男子)を保有するミリーソスポーツ、アルテミス北海道(V3女子)を保有する一般社団法人北海道レディーススポーツクラブとのホームタウンパートナー協定に基づき、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成を図る	1事業 シティPRとしてアリーナにスマイルロゴの掲出	

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究【再掲】	スポーツ施設整備費補助事業【再掲】	市民がスポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	補助件数5件(累計) (2019:2件、2020:1件、2022:1件、2023:1件)	○

自己評価基準	◎：当初の予定通り実施できたもの ○：概ね予定通り実施できたもの ▲：予定通り実施できなかったもの又は、 計画最終年度において事業化に至らなかったもの ー：外的要因等により実施しないこととしたもの又は規模を大幅に縮小したもの
--------	--

目標3 スポーツの力で「世界」へつなげる

方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

施策13 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

(1) ラグビーワールドカップ2019TMの開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
ラグビーワールドカップ2019TMの開催	ラグビーワールドカップ2019開催事業	ラグビーワールドカップ2019を開催することにより、トップレベルのスポーツに触れる機会を提供するとともに、国内外へシティプロモートを実施。	・ラグビーワールドカップ2019大会を開催した(事業終了)	◎

(2) 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
東京2020オリンピック・サッカー競技の開催	東京2020大会における首都圏での札幌魅力発信事業	東京2020に合わせて、国内外を問わず首都圏を訪れる多くの観光客に対して、北海道・札幌への来客につなげることを目的に情報発信	・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中における首都圏を訪れる大会関係者への札幌の情報発信(事業終了)	○

(3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
国際スポーツ会議の誘致に向けた取組 ※国際スポーツイベントも実績に含める	シティクロスカントリー大会実証実験事業	将来の国際大会誘致を見据えながら、市街地におけるクロスカントリースキー競技大会の開催に向けた実証実験を行う	豊平川河川敷(南大橋周辺)にてクロスカントリースキー大会(ジュニア・パラの部)を開催	◎
	国際スポーツ大会等誘致促進事業	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・車いすカーリング国際親善試合 ・パルクールプレミアカップ ・2024FISパラアルペンスキーワールドカップ札幌大会	

(4) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進 【再掲】	スポーツツーリズム振興【再掲】 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについて、オンラインを活用したプロモーションを実施(ポストン、シンガポール等) ・スノーベースタウン事業の実証実験のため、定山溪をベースとした道内スキー場へのモニターツアーを実施 ・「Sapporo Snow Park」(旧ナイトクロカンinホワイトイルミネーション)を実施 ・東京2020大会マラソンレガシーを継承した事業「街RUN中島公園」を軸に初の冬季イベントを実施し交流人口を拡大することで、利用者のモチベーションの向上に寄与した。	○
海外代表合宿の誘致 【再掲】	国際競技大会や事前合宿等の誘致【再掲】 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・海外代表選手団の合宿等の実績は無し	▲

方針7 世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

施策14 オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

(1) 市民の招致機運の醸成に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うとともに、機運醸成の取組や招致活動を図る。	・東京2020大会に関連する受託収賄事件や受注調整(談合)疑惑等による大会に対する市民等の不安や不信心の高まりを受け、「北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック冬季競技大会に向けた大会運営見直し案に関する検討委員会」を設置し、2030大会の競技運営体制の見直しやガバナンス体制の検討を実施 ・市民対話事業(公開討論会【3回】・オリパラ出前講座【82回】・市民説明会【15回】)の実施 ・検討委員会および市民対話事業において得られた意見を反映させた「北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会に向けた大会運営見直し案」を策定・公表 ・コロナ対策を講じたオリパラ教育の継続実施(ミュージアム訪問:112校)	○
	冬季オリンピック・パラリンピック基金造成事業	冬季オリパラ招致に向け、一時的に集中する施設整備等の財政負担を平準化するため、複数年に渡り資金を積み立て。	・2020年度から内閣府より「冬季オリンピック・パラリンピック招致による札幌創生推進プロジェクト」として企業版ふるさと納税の活用が認定された	
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動を通じた道内連携の促進	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うため、会場や周辺自治体との連携を図る。	・関係自治体とともに、IOCとの対話に参加し、施設整備や大会運営のあり方等について協議した	○
1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討	1972年札幌オリンピック50周年記念事業	2021年度に記念事業を実施し、2030年冬季オリパラ招致の機運醸成を推進	・周年記念事業実行委員会に負担金を支出し、実行委員会と連携して周年事業を実施した(事業終了)。 ・オリンピックミュージアムの年間来館者数(2021年):約61千人	○

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
オリンピック・パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する	全小中学校の88%にあたる259校において、副教材や実践事例集を活用した学習、オリンピックの講演、オリンピックミュージアムでの活動等のオリンピック・パラリンピック教育を実施した。	○
札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する。	小学校、中学校、高等学校の学習指導要領上、オリパラ教育の学習を行うこととなっており、教育過程に位置付けられている学校の割合は100%と考えられる。また、オリンピックの講演、オリンピックミュージアムでの活動等のオリンピック・パラリンピック教育推進事業を、112校の小中学校で実施した。	○
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ【再掲】	オリンピックミュージアム魅力アップ調査事業【再掲】	オリンピックミュージアムの魅力を向上させるため、体験装置・展示物の更新に向けた調査を行う。	— (2024年度に調査実施)	▲

施策15 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

(1) スポーツを核としたまちづくりの研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツと集客交流の拠点づくりの検討	大和ハウス プレミストドーム(札幌ドーム)周辺活用推進事業	高次機能交流拠点であるダイワハウス プレミストドーム(札幌ドーム)周辺において、スポーツや集客交流拠点産業の振興などに関わる拠点性及び札幌の魅力と活力の向上を先導することを目指した「スポーツ交流拠点」の整備を実施します。	・スポーツ交流拠点のにぎわい創出や価値・収益性の最大化に向けた、必要対応の考え方及び施設機能などについて検討を行った。	▲
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討 【再掲】	スポーツ施設再整備事業【再掲】	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応したスポーツ施設の再配置・再整備を行うため、美香保体育館更新や大倉山ジャンプ競技場等の改修を実施します。	【美香保体育館】 ・美香保体育館の後継施設整備に係る基本計画案を作成した。 【大倉山等ジャンプ競技場】 ・ジャンプ競技場の改修計画検討及び周辺の環境調査(冬)を実施した。 【温水プール】 ・温水プールの民間活力活用に向けた調査結果をもとに本市所管のプールや民間プールを含めた効率的・効果的な施設のあり方について検討を行った。	◎

(2) 冬季版ハイパフォーマンスセンター(HPC)の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
冬季版ハイパフォーマンスセンター(HPC)の誘致に向けた取組	冬季版ハイパフォーマンススポーツセンター誘致事業	冬季オリパラ招致を目指す都市として、ウインタースポーツの振興や競技力の向上に向けて、総合型ハイパフォーマンススポーツセンターを誘致	・オリパラ招致活動の停止に伴いアスリートとの要望活動は見送りとなったが、札幌市重点要望において、総合型HPSC誘致を要望 ・スポーツ医・科学を通じたアスリートへの支援体制の構築に向け、関係機関との連携を強化	▲

(3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2023年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘 【再掲】	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成【再掲】 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技5種目及び夏季競技3種目において育成事業を実施。ナショナルチームに9人の育成選手が選出された。 また、体力測定会等を行い、優れた素質を有する子どもたちの中から、8人の子どもたちを発掘プロジェクト生として選考した。	◎
アスリートの活用 【再掲】	運動部活動アスリート派遣事業【再掲】 (アスリート活用事業)	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進。	27運動部活動に派遣 派遣回数延べ335回	◎
	オリンピックズキャラバン事業【再掲】 (アスリート活用事業)	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	14イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ2,154人。	◎
さっぽろアスリートサポート事業 【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援件数 計209件	◎
スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討 【再掲】	スポーツ支援企業マッチング事業【再掲】	支援を必要とする競技者や少年団等とスポーツへの支援に興味を持っている企業を結び付ける方法について検討を行う。	・2023年時点では制度化には至っていないが、スポーツへの支援意向のある企業と競技団体や少年団をつなぐ取組は随時、個別に実施している。	▲

【自己評価集計】

自己評価基準		再掲除く					(参考:単純集計)
		2019	2020	2021	2022	2023	2023
◎	当初の予定通り事業を実施できたもの	32	19	22	32	39	48
○	概ね予定通り事業を実施できたもの	42	40	40	39	36	38
▲	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は当該年度時点で事業化に至っていないもの	5	1	1	6	8	11
—	外的要因により未実施のもの又は規模を大幅に縮小したもの	6	25	22	8	2	2
◎及び○の割合		87.1%	69.4%	72.9%	83.5%	88.2%	86.9%
◎及び○の割合(分母から「—」を除く)		93.7%	98.3%	98.4%	92.2%	90.4%	88.7%